



私たちがつくる持続可能な世界 ~ SDGs をナビにして ~

— 指導用参考資料 —

- ◆本教材は、中学校学習指導要領の社会科(公民的分野)の「2 内容」の「D 私たちと国際社会の諸課題」の「(2) よりよい社会を目指して」で活用していただくことをねらいとして作成したものです。よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、P. 1～3 に示す例を踏まえて、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する流れで構成しています。
- ◆中学校での活用に限らず、全ての学校種において「よりよい社会をつくるために何ができるか」を考える様々な学習での活用が可能です。

1 学習の前に ~SDGs…Sustainable (持続可能な) Development (開発) Goals (目標) とは~

●SDGsはどのような歴史や現状から生まれてきたのだろう

1945年の国連創設以来、「言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う*」のために、基本的人権と人間の尊厳・価値を守ることが世界の大きな目標となりました>(*国連憲章前文)。この目的の実現のために、**世界人権宣言**を端緒として様々な人権条約が採択され、**人権を守る仕組み**が整えられてきました。

同時に、厳しい状況下に生きる人びとの人権を守るための開発支援や環境保護活動も行われ、国際社会が協力して課題解決

に取り組むよう、様々な宣言や開発目標が示されました。中でも2000年に採択されたMDGs(ミレニアム開発目標)という包括的な開発目標は大きな成果をあげました。その一方で、「平均値」で見ると進歩の陰に取り残される人びとや、格差や暴力、気候変動など新たな課題の影響も顕著になり、緊急で大胆な解決策が必要と認識されるようになりました。そこで、「**誰ひとり取り残さない(No one left behind)**」世界の実現を掲げ、あらゆる国と人の目標としてSDGs(持続可能な開発目標)が作られました。

2000年から2015年まで MDGs (ミレニアム開発目標)	2016年から2030年まで SDGs (持続可能な開発目標)
<ul style="list-style-type: none"> ● 8のゴール(目標)、21のターゲット ● 途上国の課題解決を目標とし、先進国はそれを支援する ● 主に開発(社会)の目標 ● 平均値で進展を測る <p>【MDGsの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> -極度の貧困状態にある人の割合47%(1990年)→14%(2015年) -小学校の純就学率83%(2000年)→91%(2015年) -5歳未満児死亡率(1000人あたり)90人(1990年)→43人(2015年) -妊産婦の死亡率1990年以降45%減少 -HIVへの新たな感染2013年までに約40%低下 など <p>(国連ミレニアム開発目標報告2015)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 17のゴール(目標)、169のターゲット ● 途上国も先進国も共通で取り組むべき普遍的な目標 ● 社会、経済、環境三側面の調和に配慮する目標 ● 全ての人のための目標の達成を目指し、最も脆弱な立場の人に焦点をあてる=「誰ひとり取り残さない」 <p>【SDGsの特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> -多様な主体(政府、企業、市民社会等)の参加とパートナーシップが求められている -野心的な目標とターゲット(目標達成を前提に、今すべきことを考え実行する「バックカスティング」の考え方) -子どもは保護の対象であるだけでなく「変化の主体」とも位置付けられている

●SDGsの「決意」と「目指す世界」:前文と宣言も読んでみよう

SDGsの17の目標は2015年9月の国連総会で採択された文書『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』の中で示されました。37ページ(英語版は35ページ)から成るこの文書のおよそ3分の1を費やして前文と宣言が記されています。

前文では、**People(人)**、**Prosperity(豊かさ)**、**Planet(地球)**、**Peace(平和)**、**Partnership(パートナーシップ)**の5つの側面からこの目標の「決意」が示されています。

宣言には、**目指す世界**や今日の課題などが具体的に描かれ、「我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代になるかも知れない」「人類と地球の未来は我々の手の中にある。そしてまた、それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある」と世界を変える行動の呼びかけで締めくくられています。

※外務省のウェブサイトから文書全体(仮訳)のダウンロードが可能です。



2 学習計画の例

※生徒それぞれが、これまでの学習を思い出すなどしながら、この教材を入り口に関心のある課題を見つけ、そこから考え、理解を広げ深めていけるよう指導する(SDGsのゴール1~17の内容を一つずつ指導することは意図していない)。

※時数配分や中間交流、補助資料の作成などは学校の状況にあわせて変更可。

※授業の流れについては、「課題解決のための情報収集、考察、構想→レポート作成→発表・意見交換」または「課題解決のための情報収集、考察、構想→発表・意見交換→レポート作成」など、いずれの流れでも実施可。

次	学習内容	指導上の留意点
1	<p>○単元の流れの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【表紙、P.4、5(Stage①~④)】教材を読み、今後の授業の流れを把握する。 <p>○課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【P.1~3】前単元の内容や、教材内で紹介されているトピックを参考に、持続可能な社会を妨げている問題を理解する。 ・【P.4(Stage①)】SDGsの17個の目標のうち、優先して取り組むべき課題はどれかを選ぶ。 ・【P.4(Stage②)】グループになり、それぞれが優先すべきと思った課題とその理由を発表し合う。 ・【P.5(Stage③)】生徒個人が「持続可能な社会に向けて、解決すべき問題」を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元では、①自分の興味・関心のある課題について調べ、考察、構想したことをグループで発表(中間発表)する、②各自がレポートを作成する、③行動宣言を書くことを説明する。 ・世界の課題と自分との繋がり(自分から遠いように見える世界の課題が、商品の生産・消費サイクルなどを通じて自分と繋がっているしくみを想像させる等)、また、課題同士が相互に密接に関連していることに気付かせる。 ・日本のSDGsの達成進捗状況を見せることなどを通して、SDGsは先進国の問題でもあることを認識させる。 ・「これまでに学んだことで役に立ちそうなことはないか」「どのようにして調べたらよいか」などについて見通しを持たせる。 ・聞き手にとって分かりやすい発表にするため、補助資料を作成するよう指示する。また、この補助資料は、レポート作成に活用してよいことを予め伝えておく。
2	<p>○情報収集、考察、構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し、補助資料を作成するなど中間発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重等の視点から持続可能な社会を築くためにどうしたらよいか考えさせる。 ・必要に応じて、資料の標題、出典、年代、作成者等を確認し、その信頼性を踏まえて情報を収集するよう助言する。
3	<p>○中間交流(発表・意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表練習を行う。 ・グループごとに各々が調べた内容を発表する。(発表時間は一人3分。その後2分の質問時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の発表から、持続可能な社会の構築には様々な課題を解決する必要があることに気付かせる。 ・レポートを書く際に、他の生徒が作成した補助資料を有効に活用するよう助言する。
4	<p>○レポート作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちがつくる持続可能な世界」「持続可能な世界をめざして」「よりよい社会レポート」「2030年に向かって、私がしていきたいこと」「〇〇への提言」等のタイトルで作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正などの視点から自分が選択したテーマについて考察、構想させる。(構想したことが「自分の行動宣言」に繋がるように指導する。) ・考察、構想の過程と結果について、他の生徒が作成した補助資料を有効に活用させ、効果的に、かつ分かりやすくまとめさせる。
5	<p>○レポートの概要や行動宣言を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、政府、日本の国際協力機関、国際機関、民間団体など、様々な立場で、世界の課題の解決に貢献できることに気付かせる。

発展 さらに深く話し合ってみよう!

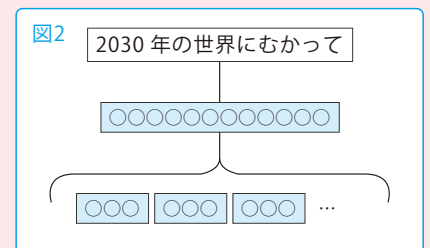
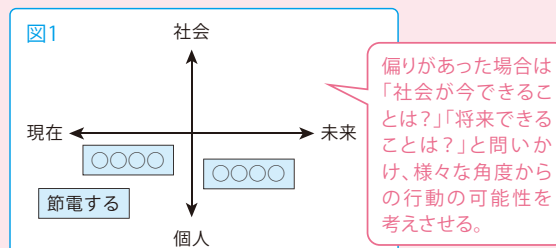
【発展のねらい】

協働の大切さを感じさせること

「行動宣言の発表」に終わるのではなく、**行動宣言同士の繋がり、問題同士の繋がり**を見つけ、協力し合うことでよりよい行動宣言が生まれないかを考えることで、お互いに協力しあうことの大切さ、目標17「パートナーシップ」の重要性(特異性)に気付かせる。

【話し合いのテーマ例】

- ・行動宣言を可視化・分析してみよう!みんなの行動宣言は「今できること?将来できること?」「個人でできること?みんなで協力してできること?」(例:図1)
- ・それぞれの行動宣言を繋げて、足して、よりよいもの・新しいもの(行動宣言、目標、提言、構想等)が生まれませんか考えてみよう!(例:図2)



3 教材活用の留意点



導入に使える動画



World's Largest Lessonより

『世界に広めよう「持続可能な開発目標 (SDGs)」』

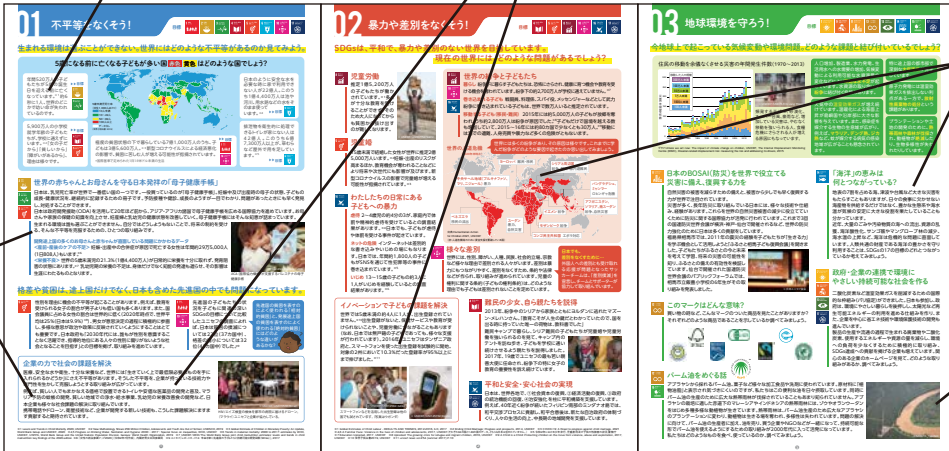
- I : 今日の課題、SDGsの誕生について (6分26秒)
- II : 世界の若者の取組例 (5分16秒)
- III : 自分にできることを考えてみよう (4分32秒)

数値の出典にリンク

さらに詳しい学習をしたいとき、最新の数値を確認したいときにご活用いただけます。

「企業の方で社会の課題を解決」や「イノベーションで子どもの問題を解決」のコラムには、該当するSDGs目標のアイコンが明記してありません。これらの取組は「目標9：イノベーション」「目標17：パートナーシップ」など、多くの目標に関わる取組であるという学習者の気付きを促します。

JICAの取組・企業や団体の取組のサイトへのリンク



課題同士が相互に密接に関連していて、その解決には様々な関係者の協力が不可欠であることの理解を促します。

川の左はアブラヤシのプランテーション、右はもたらあった熱帯雨林。

これまで学習したこと、自身の経験や興味関心を踏まえ、優先的に解決していきたい課題を選び、その理由を書きます。他の学習者と優先順位が一緒である必要はありません。

Stage②で関心のある目標やその理由を班やクラスの仲間と共有しながら、Stage③でそれぞれが解決策を考えたい課題を見つめられるように促します。



この部分が重要。留意して指導する。



若者たちのストーリー

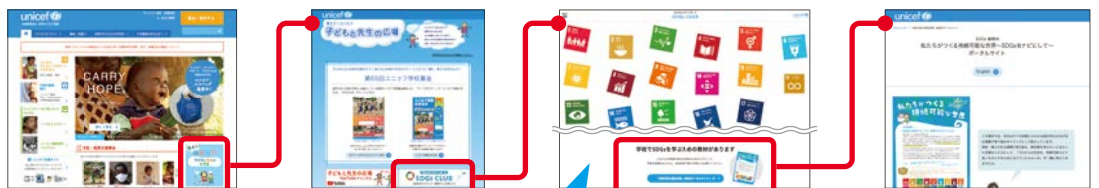
行動宣言は今すぐ身近にできること(例：節電する、募金する等)で完結させず(それが間違っているわけではない)、「今からできること、将来できること、将来のために今できること」など、様々な視点で考えるように促します(上記の黄色い吹き出し部分も参照)。SDGs CLUBから自分の行動宣言を送ったり、他の人の行動宣言を見たりすることも可能。



「SDGs副教材ポータルサイト」をご活用ください!

www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai もしくは [ユニセフ SDGs 教材](#)

日本ユニセフ協会
ホームページ
(www.unicef.or.jp)
からのアクセス方法



SDGs CLUB (www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/)では、17の目標のもとにある169のターゲットの「子ども訳」、目標ごとの課題を学べる動画やグラフを掲載しているほか、SDGsが生まれた歴史や現状、前文や宣言などについても学ぶことができます。SDGs副教材の学びの補完に、ぜひご活用ください。

4 ワークシート例

※以下のワークシートを SDGs 副教材ポータルサイトからダウンロードすることができます。(PDF 版、Word 版)

※Word 版をダウンロードしていただき、授業者が生徒の学習状況に合わせて自由に作り直していただいて構いません。

<p>記入例 私たちがつくる持続可能な世界 ~SDGs をナビにして~</p> <p>()年()組 ()番 名前()</p> <p>みなさんは、これまでの学習で、現代社会の様々な課題を学び、自分たちなりに解決策を考えてきました。みなさんのアイデアや力が、世界のみならず、2030年までに達成しようとした『持続可能な目標(Sustainable Development Goals)』を達成する大きな力になります。</p> <p>これからの社会を持続可能で、よりよいものにするためにはどうしたらよいでしょうか。また、あなたは何が得意でしょうか。レポートにまとめてみましょう。</p> <p>1. テーマの設定 冊子に掲載されているトピックを参考に、あなたがこれから解決策を考えたいと思った目標や課題を書きましょう。</p> <p><テーマ></p> <p>(例) 飢餓に苦しむ人がいない世界を</p> <p><そのテーマ(目標や課題)を選んだ理由></p> <p>(例) 日本で食品ロスが問題になる一方で、未だに世界には飢餓に苦しむ人がいることがショックで、なぜ、飢餓に苦しむ人がまだいるのか、また、その問題はどうかやったら解決できるのか調べたいと思ったから。</p> <p>2. テーマを探究するため必要な資料・調査の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(例) インターネット、本 ・ ・ <p>3. 現状・調査結果(調べて分かったこと)</p> <p>(例) 年間500万人もの子どもが5歳になる前に命を落としており、その原因のほとんどは予防可能な病気や栄養不良が関係している。小さいころに栄養が摂れないことは、脳の発達にもかかわり、その子の生涯に影響する。(日本ユニセフ協会ホームページより)</p> <p>日本で廃棄される食品は年間〇〇トン。日本に輸入されている食品は年間〇〇トン。(農林水産省ホームページ)</p> <p>アフリカでは植民地時代に宗主国が求めるコーヒーや紅茶、たばこといった一次産品の生産に偏った経済構造が構築された。自給的な少量生産が圧迫され、一種類の作物に依存しているため、気候変動や病虫害の影響が大きく、生活が不安定になりやすい。(公民の教科書より)</p>	<p>()年()組 ()番 名前()</p> <p>4. 解決策(現在行われている取り組み・将来に向けた取り組み)</p> <p>(例) ユニセフ(国連児童基金)が、栄養治療食を提供して子どもの栄養治療をしたり、母親や家族に栄養に関する知識を広めたりしている。</p> <p>WFP(世界食糧計画)が干ばつなどで食糧が不足するところに、毎年平均9000万人分の食糧支援を行ったり、学校給食を届けたりしている。</p> <p>地域の経済を支えるため、支援活動で使う食糧は現地の小規模農家から購入している。JICA(国際協力機構)はタンザニアで30年以上、灌漑設備を整えたり、日本の農業技術を伝えたりする活動を行っている。</p> <p>輸出用の商品作物が作られていることも多いため、穀物や野菜へ作物を転換するような働きかけも行われている。先進国が家畜用の穀物輸入を減らし、国産飼料を調達する動きもある。北海道の高校では、廃棄される農産物を再利用して飼料にする取組を行った。</p> <p>5. 分析や考察の結果・自分の考え</p> <p>(例) これまで私は、アフリカは気候的に穀物を育てるのが難しかったために、食糧不足に陥っていると思っていたが、そうではなく、食料が効率的に配分されていないことなど飢餓の問題は多くの問題が重なり合って発生していることが分かった。飢餓をなくすために、安定した農業がその国で行われるために、まずはその国が平和でなくてはならないと思う。そして、日本も飢餓に苦しむ国で生産された穀物で家畜のエサがまかなわれているなど、日本も無関係ではないと知った。単一作物の生産に依存してしまう仕組みを世界全体で変えていかないといけないと思った。</p> <p>レポートを書き、考えを整理した後で、これからあなたが生きていく中で、どのような行動ができるか、アイデアを、行動宣言として下の口の中にも書きましょう。</p> <p>行動宣言</p> <p>(例) まずは、学校給食からフードロスをなくす。</p> <p>(例) 一生懸命勉強して、将来、厳しい環境でも育つ植物を開発する。</p>
---	--

コラム 論理的思考を養うチャンス! 「行動宣言」への問い返して思考の過程を再確認

上記の例のように「学校給食からフードロスをなくす」という行動宣言を導き出した生徒に「その宣言は自身が設定したテーマ(飢餓に苦しむ人がいない世界)とどう繋がるのか」と問い返すと、何と答えるでしょう?課題を構造的に理解していれば、行動宣言がどのように課題解決に繋がるか論理的

な説明ができるはずですが。もしかしたら「学校でフードロスをなくしても、飢餓で苦しむ人に食料が行き渡ることには直結しない」といった気付きから、日本のフードロスの解決をどのように世界の飢餓撲滅に繋げていくのか、さらなる課題解決方法を探ろうと学びが深まるかもしれません。

5 活用のアイデア

総合的な学習の時間・各種研修会にも!

本教材は、世界の課題だけでなく、日本にも関わる問題や、日本の貢献、また具体的なアクションや解決策のコラムで構成されており、生徒の幅広い興味・関心に応えられる教材になっています。社会科に限らず、総合的な学習の時間において国際理解等を内容とした探究課題として活用することも可能です。世界にある様々な課題に出会い、疑問をもち、テーマを設定する手助けに、ぜひ活用ください。また、持続可能な社会の創り手を育てることが求められる中、SDGsについてどのように学習を進めていくか、先生方に学んでいただく教員研修会等でもご活用いただけます。



コラム 質問「SDGsは2030年までに達成できますか?」にどう答えますか?

SDGsには野心的な目標も多く、「本当に達成できるの?」と疑問に思う生徒も少なくないようです。なぜ目指す姿が高く掲げられているのか。それは、目標達成を大前提に「できること」ではなく「やるべきこと」を協力して成し遂げること(バックキャストの考え方)を求めているからです。現在のやり方の改善だけでは到達不可能なレベルの目標を設定されたとき、人は従来の「改善」というオプションを捨てて、根本的に異なる発想を試みます。そこに生まれる「創造的破壊」や「イノベーション」といった世

界を変える力に大きな期待が寄せられています。「次のテストで90点取りたい」と目標を決めた子どもは、先生に「本当に90点取れますか?」とは聞いてきません。目指す姿に到達できるかは自分次第と分かっているからです。一人ひとりがSDGsを自分ごとと捉え、2030年(それ以後も続く世界が持続可能なものであるためのチェックポイントの年)に向けて「やるべきこと」を考え、行動に移してくれることを願っています。

〈資料に関するお問い合わせ〉

公益財団法人
日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
☎ 03-5789-2014 FAX 03-5789-2034 ✉ se-jcu@unicef.or.jp